内水試　かわら版　No. 134　　1995. 11. 7

なぜ、漁獲量は減ったか－1

内水試図

いつ頃から、どんな魚が減ったのか

近年、霞ケ浦北浦で漁獲量が大幅に減少し、非常に大きな問題となっていますが、この漁獲量減少の原因については、いろいろな要因が考えられることから、まだ明確に答えることができていません。

しかし、極めて重要な問題でありますので、このシリーズではこれまでに得られた調査結果から、推測も含めて少し大胆に検討してみたいと思います。

図１に霞ケ浦北浦の漁獲量（貝類を除く）の推移を示しました。

これによると霞ケ浦では昭和53年（1978）に約13700トン、北浦では昭和51年（1976）に約3000トンの最大漁獲量（ただし、貝類を除く）を記録しています。

しかし、その後漁獲量は次第に減少し始め、現在でもまだその減少傾向が続いています。

平成6 年の漁獲量は霞ケ浦で約4000トン、北浦では約600 トンと、霞ケ浦では最大漁獲量の約¼、北浦では約⅕となっています。

また、ここで注目すべきことは、漁獲量の減少時期が、霞ケ浦と北浦で殆ど同じであるということ、また図２に示したように、この漁獲量減少の速度が、両湖で全く同じ傾向を示しているということです。

このように漁獲量減少の時期や速度が、両湖で同じであるということは、減少の原因も亦、同じである可能性の高いことを示唆していると思います。

次に、どのような種類の魚類が減少しているのか調べてみました。

図３に、漁獲量が減少し始めた時期に相当する、昭和50年（1975）からの、両湖の主な魚類の漁獲量の推移を示しました。

これによるとこの間、霞ケ浦北浦ともにイサザアミ、ハゼ類、テナガエビ、コイ・フナ、ワカサギ・シラウオで、総漁獲量の約90％を占めていることがわかります。

中でもイサザアミ、ハゼ類およびテナガエビの３魚種で、霞ケ浦では総漁獲量の約70％を、北浦では約50％となっています。

これらの魚種について大変興味深いことは、どれも一様に漁獲量が減少（ただし、霞ケ浦では近年シラウオが増加傾向にあります。）していることです。

次回は、この漁獲量が減少している時期に、霞ケ浦北浦で何が起こっていたのか、調べてみることにします。

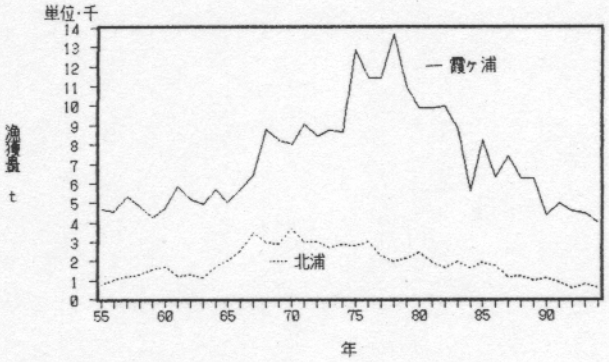

図１　漁獲量の推移（貝類を除く）

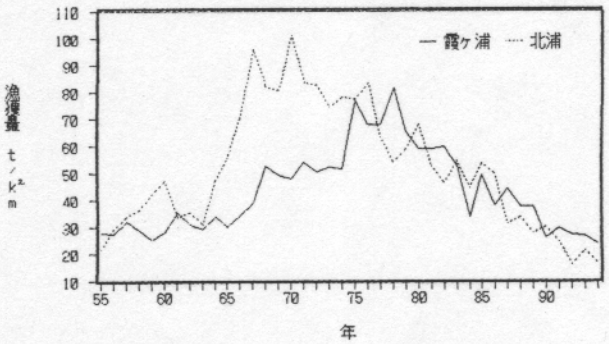

図２　湖面積１Km² 当たりの漁獲量の推移（貝類を除く）

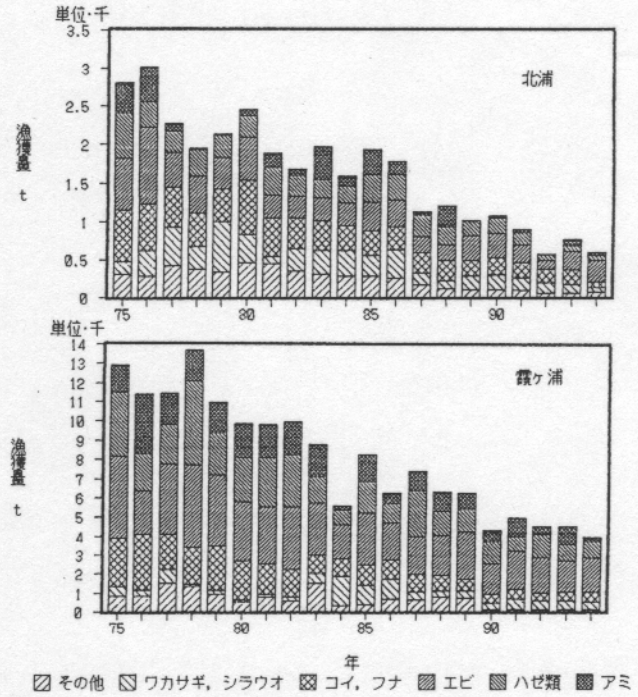

図３　魚種別漁獲量の推移（貝類を除く）

茨城県内水面水産試験場　（☎0299-55-0324）

内水試図